

施策評価シート(対象:H28年度実施施策)

H29年度評価

施策名	安全・安心な生活ができる環境の整備			総合計画コード	223
部名	健康づくり部	主管課名	長寿はつらつ課	主管課部課コード	040200
関連部課名	福祉部(福祉課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	高齢者が住み慣れた地域で安心して尊厳のある生活を送ることができるようになっている。				
施策概要	高齢者住宅の提供、住宅改善費の助成等を行い、住環境の安定化を図る。 緊急通報システムの活用や、民間企業・地域住民との連携により、見守り・支えあえる体制づくりを推進する。 認知症施策の推進や成年後見制度の活用を促進するなど、高齢者の権利擁護に努める。				
個別計画 関連計画	計画名称	第6期高齢者福祉計画・介護保険事業計画	計画期間	H 27 年度	～ H 29 年度
				H 年度	～ H 年度
				H 年度	～ H 年度

2. 実施結果

H28年度の 施策の実施内容	・高齢者の居住環境の改善のため、手すりの取付や段差の改修を行う場合、改修費用の一部について62件(2月末現在)の補助を行った。 ・住宅に困窮している高齢者に対し、高齢者住宅の貸与を行うほか、転居した場合に家賃の一部を助成した。 ・ひとり暮らし等の高齢者に対し、安心見守り通報システム・緊急通報システムの設置を行った(計520台) ・認知機能の低下などにより判断能力が十分でない方の権利を守るため、成年後見制度の利用支援として、市長申立を行った(5件2月末現在) ・認知症サポーター養成講座を、小学生、中学生、朝霞市商工会の方に対し実施したほか、東洋大学、朝霞市社会福祉協議会の協力の下、徘徊高齢者声掛け訓練を実施した。					
H28年度の 基本概念(コンセ プト)の実施内容	安全・安心な まち	緊急通報システムなどの設置のほか、配食サービス、乳酸飲料配付サービスを通じ、高齢者の安否確認を行った				
	子育てが しやすいまち	放課後児童クラブ所属の小学生や中学生向けの認知症サポーター養成講座を実施し子どもの社会参加を促した。				
	つながりのある 元気なまち	彩夏ちゃん見守り支援事業を実施することで、「互助」を推進した。				
	自然・環境に 恵まれたまち	—				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度(見込)	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
		67,906	—	—	—	—

指標名 (説明)		単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
			目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
			実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)
①	認知症サポーターの人数	人	2,300	2,600	2,900	3,200	3,500
	(説明) 認知症サポーター養成講座を受講し、認知症サポーターとなった人の数		3,286	—	—	—	—
②							
	(説明)			—	—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☐ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ☐ D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ☐ B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ☐ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ☒ C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) 認知症サポーター養成については、第1中学校3年生の全クラスを対象に実施したことにより、目標を大きく上回る認知症サポーターを養成することができた。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☐ A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ☐ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ☒ B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ☐ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) 高齢者数の増加に伴い、ひとり暮らしの高齢者をはじめ、認知症の高齢者や住宅に困窮する高齢者も増加すると見込まれる。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 認知症サポーターや、見守り支援員、見守りに関する協定を締結している企業は増加しているが、ネットワーク化されていない。

4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☒ 重点化 ☐ 内容の見直し					
	(説明) 認知症サポーターや、見守り支援員、見守りに関する協定を締結している企業は増加していることから、こうした方を含め、朝霞市の見守りネットワークを構築する。 成年後見制度の利用促進を図るため、普及啓発を継続するほか、成年後見センターの設置に向けた検討を引き続き実施する。					
行政と市民の役割分担	☐ I 行政の関与(役割)を拡大 ☒ II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ☐ III 市民の関与(役割)を拡大					
	(説明) 高齢者が、住みなれた地域で安心して生活をおくるためには、今後も、行政と市民が協働して実施していく必要がある。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方向性
		H27決算	H28決算見込			
	1 安心見守り支援事業	22,652	24,783	4	5	現状のまま
	2 民生委員児童委員活動事業	-	-	5	5	現状のまま
	3 高齢者住宅支援事業	29,187	33,511	4	4	現状のまま
	4 養護老人ホーム等入所事業	7,765	9,612	3	3	現状のまま
	5 高齢者自立生活支援事業	-	-	4	4	現状のまま
	計 (単位:千円)	59,604	67,906	—	—	—
	☐ 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議】認知症サポーターや見守り支援員に登録している方を上手く活用できていないので、こうした方の役割について検討する必要がある。					
部長の意見	高齢者の見守りは、行政と市民、市内の事業者等の連携が必要であることから、個々に活動している個人、事業者をネットワーク化することが重要である。					